

## 書 評

中村聡宏著 東洋館出版社 2020年

## 『スポーツマンシップバイブル』

加 藤 英 一

1975年の欧州評議会での「Sports for All 憲章」及び1978年のユネスコ総会での「体育・スポーツ国際憲章」において、スポーツはすべての人が享受すべき基本的権利として明文化された。また日本においても2011年、スポーツ振興法を改正したスポーツ基本法の第2条において、同様にスポーツが人々の権利であることが明文化された。現代社会において、スポーツは人権のひとつと捉えられるのである。このような一連の動きは、スポーツというものがより社会の中に浸透してきた証であり、一人ひとりの人生において欠かすことができない活動のひとつであると理解することができる。

より多くの人びとが日々スポーツに接するようになり、スポーツそのものが欠かすことができない社会活動の一部となるに伴い、スポーツをめぐる社会問題も顕在化ようになってきた。例えば、個人のレベルでは、プロスポーツ選手による違法ドラッグの使用や反社会的勢力との接触、違法賭博への関与、等々を挙げることができる。また集団のレベルではスポーツ組織におけるガバナンスの欠如やコンプライアンス違反、ハラスメント、等々を挙げることができる。それ以外にもスポーツをめぐる問題として、過剰な勝利至上主義や過剰な商業主義、スポーツの政治利用など、挙げればきりが無い。そしてこれらの問題が取りざたされるたびに語られるのが「スポーツマンシップはどうしたんだ」という文言である。

ここで取り上げた『スポーツマンシップバイブル』は、正にこの「スポーツマンシップとは何か」を正面から捉えたものである。その意味で本書の内容は、今の時代が求めているものそのものといっても過言ではないと考える。

本書の冒頭で著者は、「さまざまなスポーツの競技大会、運動会、体育祭などの開会式で『スポーツマンシップにのっとり、正々堂々と戦うことを誓います!』という宣言がされていました。しかしながら、あらためて『スポーツマンシップとはどういう意味か』と尋ねられると戸惑ってしまうのではないのでしょうか」(中村, 2020, pp.3)と語り、これを

スポーツマンシップ問題と名づけている。

では、著者が主張するスポーツマンシップとは何か。著者は次のように明言する。「スポーツマンシップは、スポーツマンになるための心構え、『Good Game を実現しようとする心構え』です」(中村, 2020, pp.47)。そしてこの Good Game を実現するための条件として、「尊重 (Respect)」、「勇気 (Braveness)」、「覚悟 (Resolution)」の3つが掲げられている (中村, 2020, pp.47)。

まず「尊重」とは、あるものの存在や価値を理解し許容することであるとして、その上で試合の相手、審判、そして規則を尊重することとしている (中村, 2020, pp.58)。

次に「勇気」とは、困難や危険を恐れない気持ちであるとされる (中村, 2020, pp.93)。競技においては、強い相手を前に立ち向かうこと、自ら考え決断し責任を負って行為することが求められる。その際に避けて通れないのが「勇気」である。

最後の「覚悟」とは、「勝利を目指してスポーツに挑み、苦しい試練を耐え抜き全力で愉しみ尽くす気持ち」(中村, 2020, pp.111)と著者は述べている。スポーツを愉しむ上では、そこで生じる様々な困難やリスク、複雑さを受け止める心構えが必要である。それ故に「覚悟」が求められることになる。

このように「尊重」、「勇気」、「覚悟」は、Good Game を実現するための3つの条件とされるが、この3つを条件として各競技者は Good Loser であると共に Good Winner であることが、スポーツマンシップにおいては求められる。ここで Good Loser とは、競技において敗北してもライバルの勝利や成功を称え、自らの足りない部分を謙虚に受け止め、次の成功や成長を求めて努力する潔い人意味する (中村, 2020, pp.35)。他方、Good Winner とは、敗北した競技相手を思いやり勝って驕ることなく謙虚さを忘れない人を意味する (中村, 2020, pp.39)。謂わば、Good Game とは、上記の3つの条件の下で共に勝利を目指して全力を尽くすが、勝敗が決定した後は、勝者は Good Winner そして敗者は Good Loser となることによって初めて成立するものなのである。

著者によればスポーツマンシップとは、前述した『Good Game を実現しようとする心構え』というのが本書の核心といえる。そしてこの Good Game を説明するキーワードが「尊重」、「勇気」、「覚悟」の3つの条件と Good Winner、Good Loser なのである。

本書は現在のスポーツが置かれている社会的状況において、スポーツマンシップを正面から捉えた意欲的な著書といえる。しかし学問的側面から本書を捉えようとすると、不満な点も残されている。例えば、「尊重」、「勇気」、「覚悟」に関しても、著者がこれらを Good Game を実現するための条件として主張する、歴史的背景や論理的な根拠などに関しては触れられていない。これは Good Winner と Good Loser に関しても同様である。

しかし本書は一般の人びとを対象とした啓蒙書と捉えるのであれば、特にこの点に問題があるとまでは言えない。ましてやこの点をもって、本書の価値が損なわれるというわけでは決してない。